

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0872600051		
法人名	有限会社 福祉未来計画		
事業所名	グループホーム榎子木(かやのき)		
所在地	那珂市戸崎503番地3		
自己評価作成日	2021年5月10日	評価結果市町村受理日	2021年8月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&amp;JivovocCd=0872600051-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&amp;JivovocCd=0872600051-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2
訪問調査日	2021年6月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①家庭的な触れ合いを大切に、御家族とは電話や写真の掲示、年2回の家族会等を通して密接なつながりを持っています。また地域との交流を大切に、年6回開催される推進会議では戸崎地区自治会長、民生委員の方々などを交え地域との連携を密にしています。また地域消防団・自衛消防団の見守り活動を実施して頂いております。②医療連携の強化に努め、看護師の常置化、喀痰吸引事業者登録、指導者の育成、研修の充実などを通し、家族のニーズに沿った看取り体制を整えています。③御利用者一人一人の心に寄り添った介護に努め、質の高い介護と安心安全な生活環境、自然を大切に環境作りに努めています。④ユニット間での交流を兼ねたイベントを通して、御利用者楽しんで頂けるような、より細やかな介護の充実を図って行きたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広大な敷地に建つ、別荘のような佇まいの事業所である。緑に囲まれ、風に揺れる木々の葉ずれの音が心地良い。平成30年にオープンした新館には機械浴が導入されるなど、職員の意見が取り入れられた。運営推進会議の討議で看取り実施を決め、自治会女性部の舞踊ボランティアが来訪し、自治消防団の見回りがあるなど、地域に受け入れられている様子が伝わってくる。社長は会議や申し送りに参加し、庭の手入れも行っており、職員からの信望が厚い。また、社長の姿を見ると話をしたくて追いかけてくる利用者の姿も見られ、家族のような温かみのある運営を感じられた。職員は、理念の『友愛』から『思いやり』『互助』『家族』など想像を広げ、利用者に寄り添って支援しており、理念がしっかり根付いた事業所であると感じた。\*新型コロナウイルス感染予防の観点から、訪問調査は通常より時間を短縮し、簡潔に実施。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	榎木子のこころ「友愛」の理念は象徴的ではあるが、イメージされるそれぞれの状況を各自で膨らませることで、関係する誰もが共に歩みながら明るく穏やかな家庭的な雰囲気を醸し出している。	毛筆で書かれた理念『友愛』が玄関に飾られている。社長から、入職時研修や会議等で理念への思いが伝えられる。職員は『友愛』から『思いやり』『助け合い』『友人』『近所』『家族』などを連想し、日々の支援や職員同士の繋がりに活かしていた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方々とは、日常の挨拶や、月2回の自治消防団の巡回を行って頂いている。行事再開の折には、以前同様地域のボランティア受け入れ、自治会の行事への参加、お手伝いも積極的に行う予定である。	地域の行事や社協のボランティア体験などがコロナ禍で中止となっており、交流の機会が持てなくなった。自治消防団が外回りの見回をしてくれ「木が大きくなって電線にぶつかるから切ったほうがよい」など、気付いたことを伝えてくれる。現在は納涼祭等に家族や地域住民を招待せず、利用者と職員で行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	那珂市社協主催夏のボランティア体験の協力、歌や踊りなど地域ボランティアを積極的に受け入れ地域との交流の機会を持っていたが、コロナ禍の現在は中止している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には自治会長、女性部会長、民生委員、地域包括支援センター、御家族代表、那珂市役所の他、交流のあるグループホームの代表も出席して施設の報告や意見交換をしていたが、コロナ禍の現在は文書にて報告を定期的に行っている。	書面での会議となっている。写真付きの行事報告、利用者情報、事故・ヒヤリハット報告などを推進委員と全家族に送付しているが、特に意見等はない。市からの意見でヒヤリハット報告の書式を、対策を入れた表に変更中。自治会女性部長が委員として出席しており、コロナ禍前は女性部の方々がボランティアとして踊りを披露してくれていた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議資料にての報告や、利用者数、待ち数、病気や怪我の報告などを適宜実施することによって、コンプライアンスの徹底を図っている。又、新型コロナワクチン接種では市の指導と相談を進めている。	市とは文書やメールでのやり取りの他、介護保険更新申請などで出向くことも多い。良い協力関係が築けており、ホームページに空き情報も掲載されている。ケアマネ連絡会もオンラインで会議を再開し、他のグループホームともまめに情報交換を行い、日頃の支援に役立っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等の適正化のための指針や、身体拘束禁止委員会の定期開催、お茶の水ケアサービス学院の配信研修を行い、職員全員が、身体拘束をしないケアの実施に務めている。	身体拘束禁止委員会を3ヶ月に1回開催し、議事録を作成している。家族の意向でベッドの4点柵をつけていた方が、本人の意向もあり2週間で廃止となり、現在拘束が必要な方はいない。マニュアルを整備し、家族同意書等も準備している。外部の通信教育を各自が受講しており、終了テストも実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定例のユニット連絡会議、職員会議やケースカンファレンス等を通して虐待等が内容に相互に確認をしている。又配信研修を行いきめ細やかな対応が出来るように留意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設長が社会福祉士として権利擁護に関わる制度やその運用について研鑽を積み重ねている。また外部講習会を通して成年後見制度等の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長、管理者、ケアマネージャーの複数人が契約時に対応し、施設の状況や経費等について詳しく説明している。又御家族からの質問についても一つ一つ丁寧に答えられるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回家族会を開催し、行事も参加して頂き家族同士の交流の場をもうけ、御意見を頂いていたが、現在は行事を中止している為、サービス計画書作成時の連絡の際や、面会時に御意見を頂き運営に反映している。	一時、面会禁止にしていたが、面会室を準備し、時間制限を設けて、顔を見て会話ができるように支援している。家族からは「元気で穏やかに生活してほしい」等の要望が多い。利用者の状態に応じた役割をもてるようにして、草取りや清掃などをお願いすることもある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット連絡会議や職員会議を行い、職員の意見や提案を聞く機会を設け運営に反映させている。又ケースカンファレンス、ヒヤリハット・事故報告書の検討等も併せて実施することで、御利用者の把握についての共通理解を図っている。	毎月のユニット会議や職員会議は、関係主任以上の会議で課題を決めており、現在は書面での会議となっている。コロナ禍で出かけられない利用者を考慮し、運動会やカラオケなど職員の提案で実施した。管理者は、職員の様子をみて個別に話を聞くなどしている。職員からは、会議や申し送りには社長が同席して内容を把握しており、職員の思いがくみ取られていると感じるとの話が聞けた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月次月の勤務割を作るための希望調査を実施し、希望が叶うようなシフトを編成している。又毎月配信研修を実施し新しい知識や方法などについて理解を深めるように努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	zoomを使っての外部研修や、お茶の水ケアサービス学院の配信研修を毎月実施し、知識の啓発や実践課題等の発見にいたるよう務めている。又朝の引継ぎ等を利用して個々の事例に応じた医療的ケアについての相互理解に務めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネネットワークを活用し、勉強会に積極的に参加。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に家族やケアマネージャー等と連絡をし実調に伺い、本人の不安や要望等を確認。安心できる関係作りを務めている。また家族から必要な情報を収集し、入所後の環境変化に対応できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族から要望や不安な事を伺い、相互によく話し合い、理解を深める事で信頼関係を築ける様務めている。また些細な事等でも電話等で確認を行いながら進めるよう留意している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の状況、その時々々の要望に応じた柔軟な支援を行い、場合によってはほかのサービスを進めることもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のこれまでの生活を尊重した働き掛けをしながら、職員が利用者から教えて頂いたりしながら支え合う関係を構築している。また他の利用者との関係性にも配慮し、トラブルの未然防止や調整に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と職員は気軽に話せる関係作りに努めている。その関わりの中で共に利用者を支え合う関係は出来ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は面会室を利用し、親族の方のみ気軽に面会に来て頂いている。日常会話の中でも慣れ親しんだ場所や人を意識的に話題に出すよう努めている。	家族以外の面会は不可としており、手紙がきたり、友人から「元気にしていると伝えてほしい」と電話があった。理美容は訪問を利用し、髪染めは職員が行っている。個人で新聞を購読している方や、市からの広報誌を回し読みしたり、訪問販売の乳製品を購入できるような支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性を大切にしながら利用者同士が支え合うように支援している。また性格や病態の相違により関係性が悪化する事を未然に防止できるよう、食堂での座席の位置や会話等にも細心の注意を払っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者の家族にも気軽に訪れることができる雰囲気づくりに努めている。また退所後の相談についても、物品等の処理出来る限り希望に沿った形で対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全職員が利用者に関する情報を共有し利用者の意思を尊重できるよう配慮している。利用者が自身の希望を伝えられない場合は家族を含めたサービスの提供に努めている。	意思表示ができる利用者が多く、トラブルにならないように気をつけている。耳が遠い方には耳元で声かけをし、ナースコールを頻繁に押す方へも丁寧な対応がされ、職員は利用者の状態に応じてそれぞれの思いを受け止めようと努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や知人、前任ケアマネの話聞く等、これまでの暮らしを出来るだけ把握できるよう努めている。またそれをケースカンファレンス等で情報の共有化を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の詳細な介護記録、健康状態の記録を行い、ADLについてアセスメントを行う事で、職員が現状を把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の状態に変化が見られる時は、こまめにサービス担当者会議を行い、現状の課題を共有する事で、現状に即した介護計画が作成できる。	職員から利用者の状況を確認し、電話等で家族の意向を聞き、計画作成者が6ヶ月毎にプランを作成。職員全体で確認し、家族に伝えている。個人記録簿にケアプランを挟んでいつでも見られるようにしている。毎月、担当者の意見を聞きながらモニタリングし、次の計画に繋げている。職員は、利用者の『心の声』をくみ取り、日々の様子を記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌や個人記録等を活用して申し送り等を行い、職員間での情報を共有しケアや介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	単独事業につき、現在サービスの多様化には取り組んでいないが、看取りサービスなど家族のニーズに沿った柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市立総合運動公園、私立民族資料館、県立植物園等身近にある地域資源を活用し、心身の力を発揮しながら安全で豊かな生活を楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族と相談し納得の得られた「かかりつけ医」の受診を支援している。また連携している内科医の往診や訪問歯科、訪問医療の受診も受けている。	月1回の訪問診療を受け、かかりつけ医を受診される方でも、ホームが費用を負担し、健康診断を受けてもらう。薬などの変更時には家族に連絡をし、個人記録に残している。家族介助でかかりつけ医を受診する際には日頃の様子を書面で渡し、必要に応じて医師と直接やり取りをしたり、同行することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師が看護記録を作成し健康の維持管理に努めている。また介護職も兼務し御利用者の医療や生活状況も含め御利用者の総合的な把握に努めている。体調急変時は中心となって適切に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケアマネージャーを中心に、病院関係者と情報交換や連絡相談に努め、入院・早期退院に備えて連携している。また施設看護師が病状の把握と今後の措置等について、職員間の共通理解に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合や終末期について家族と話し合っている。御利用者が日々をより良く生活出来るよう、かかりつけ医や関係者と相談・連携して対応している。また御利用者家族とは書面での確認も必ず行うような仕組みを整備している。	3ヶ所の医療機関と連携し、希望があれば看取りも行う。終末期には、医師から家族へ説明があり、職員も同席して方針を決定している。看護職員に相談でき、チームとして協力し合いながら支援している。夜間の応援職員を当番制で決めており、職員の不安や負担の軽減を図っている。辛そうにしている方に「頑張っね」と励ます他の利用者の姿も見られた。職員からも、看護職員が中心となってカンファレンスを行い、情報を共有し、足りないことを補い合って、その人らしい最期を送れるよう支援していると聞くことができた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応が出来るように職員会議等で研修している。応急手当や初期対応の訓練についてはケースに応じて看護師を中心にしながら実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練を年2回実施し、御利用者の避難方法を職員は身につけている。災害時の市指定避難場所にも隣接している。また井戸水や発電機も利用出来る環境になっている。	年2回、その内1回は消防署の立会いで避難訓練、消火訓練を行っている。避難時にはドアを閉めるなどの指導を受けている。平屋で非常口にはスロープがあり、安全に避難できる。発電機と井戸があり、飲料水や缶詰などを備蓄している。職員からは、訓練を実施しており、視界に入る場所に緊急連絡網があるので、あまり不安は感じていないとのこと。	食糧品や発電機など、備蓄品リストを作成して管理し、寒さ対策等の不足品はないか検討して頂く事を期待する。避難時の見守りなど、地域の方に協力を依頼する内容を具体化し、自治消防団等へも協力を依頼する検討をして頂きたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の性格、生育環境や認知症の状態が一人一人の行動や言動につながっていることを理解しながら接している。プライバシーの尊重や言葉かけには普段から十分な配慮や注意をして接している。	名前は『さん』付けとし『ちゃん』付けはしない。トイレ誘導や排泄確認の声かけに気をつけている。ホームページの写真掲載についても家族の同意を得ているが、なるべく後ろ姿の写真を使用する配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを図り、本人の思いやりや希望を表せる世に日常生活を通して働きかけを随時行っている。特に入浴時には職員と1対1の話を通して自己表現が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	トイレ誘導や洗面、居室での休憩や就寝等、一人一人の生活のペースに合わせた支援をしている。お茶の時間なども眠い場合など、無理に誘うことはしないで様子を見ながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を伺いながら、その人らしい身だしなみができるよう支援している。また訪問理美容が定期的であり、ほぼ全員が利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月1回季節に合わせた楽しみメニューの提供し、食事を楽しんで頂いている。また一人一人の嗜好や好み、持病等により違ったものを提供するなどの対応をしている。お米は精米をしながら提供している。	食材業者のメニューと食材を使用している。誕生日会には担当者が企画を立て、色紙とプレゼントを準備し、ケーキを食べながらみんなでお祝いをする。庭でお弁当を食べたり、芋煮会や畑で収穫したサツマイモを焼き芋にして楽しんでる。楽しそうにどら焼きを作っている写真が飾られていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食べた量や水分量を把握し、身体の状態や習慣に応じて栄養・水分量が確保出来るように支援している。好みの飲み物やスポーツドリンクをお茶の時間に提供し、水分補給に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者個々に合わせ、うがいや歯磨きの声かけを行い、食事毎に実施している。義歯の方には夜間入れ歯洗浄液を使用し義歯の清潔に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、定期的なトイレの声掛けや誘導を行い、リハビリパンツ等に頼らない自立に向けた支援を行っている。	排泄パターンに応じた声かけをして、失禁の回数が減るなどの改善が見られた方がいる。尿取りパットは通気性を考慮している。ポータブルトイレを使用されている方には、センサーで駆けつけ安全に使用できるよう配慮している。トイレの前にイスがあり、座って順番待ちができる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や排便の記録を基に、かかりつけ医と相談しながら、一人一人に合った方法で取り組んでいる。また便秘が酷い時は施設の看護師が状況に応じて薬の調節や摘便等により対応している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には午前中に一日おきではあるが、利用者の希望があればその都度対応して入浴を楽しんで頂けるようにしている。入浴を拒否される方にも柔軟に対応しながら入浴を促している。	入浴は日曜日を除いて1日おき。ゆず湯やしょうぶ湯、リンゴ湯など季節の湯や入浴剤で楽しみ、ゆったりと入浴している。車いすのまま入浴できる機械浴を導入している。脱衣所にもエアコンが設置され、足拭きマットは個人ごとに交換している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣を把握し、安心して休息や睡眠がとれるよう支援している。また夜間寝付けない場合や徘徊が見られる方にも無理に寝かせようとしないで、状況の応じて誘導するよう留意している。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の健康状態や症状の変化を確認しながら、かかりつけ医や看護師と相談し、服薬の支援に努めている。また職員が服薬状況を共有化し、看護師を中心に服薬状況の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物畳み・畑仕事・除草作業や散歩等一人一人の生活歴に合わせた役割や気分転換の支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ワゴン車で花見・県植物園・菊祭り見学など外出行事も定期的に行っており、利用者の希望に応じて近隣をドライブを実施している。	外出行事もコロナ禍で制限されることが多いが、車窓からの景色を楽しむドライブや、人気のない公園に行くなど配慮しながら出かけている。散歩で敷地を2周するといい運動になる。庭でお茶を楽しむこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて少額の金銭所持や買物等での使用を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状のやり取りや本人の希望等、その都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	豊かな自然の中にある施設であるため常に季節を感じることができる。また、共有空間には花を飾ったり、季節に応じた小物や人形等を飾って住みよい空間作りに努めている。	季節の花や野菜などを眺めながら食事ができる。廊下には、敬老会や芋煮会、カラオケやおやつ作り、ひな壇の前に座る利用者達の写真が飾られ、行事を楽しんでいる様子が伝わった。清掃が行き届いており、浴室やトイレ、廊下などはチェック表で管理している。廊下の手すりは、手を置きながら歩けるように低い位置に設置している。利用者は眺めのよいホールで、体操や歌、ぬり絵や折り紙などをしており、訪問時は七夕の飾り付けを始めるところで、利用者から短冊に込める願いのワードを引き出す支援を行うと話されていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では気の合った利用者同士で、楽しく会話が弾むような工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に協力してもらい、馴染みの品々や使い慣れた寝具・タンス・畳等を持参してもらい、使って頂いている。	下の名前の表札があり、クローゼットとベッドが用意されている。椅子やタンス、テレビを置いたり、手作りの作品やカレンダー、写真などが飾られている。畳を敷いて、布団で寝ている方もいるなど、利用者の思いに沿った居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の身体機能に合わせ、出来るだけ自立した生活が送れるよう安全な環境作りを工夫している		

(別紙4(2))

事業所名 : グループホーム榎子木

作成年月日 : 2021年8月24日

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4(3)	毎回同ような内容の事故報告書が上がっている。ヒヤリハットは多数上がっているが、事故防止につながっていない。	事故報告書、ヒヤリハットの内容の分析をし対応策講じ、事故防止につなげたい。	全職員から代表者を選出し、事故防止検討委員会を発足する。事故報告書、ヒヤリハットを委員会で分析し出した対応策を、職員に周知して事故防止につなげる。	6ヶ月
2	20(8)	コロナ渦の現状では、ご家族とは面会室にて短時間の面会が出来ているが、遠方の親族や友人とは面会が出来ていない。	遠方の親族や友人とも気軽にお顔を見てお話が出来る。	施設のタブレットを使い、遠方の親族や友人とでも、リモートで面会出来るようにする。	3ヶ月
3	35(13)	災害に備えての備蓄品の用意はあるが、管理が思うように出来ていない。	備蓄品の点検補充とリスト表作成。	備蓄管理者を選出し、リスト表を作成し、それに沿って備蓄品の点検補充を年に1回設け、備蓄品の点検を行う。	1ヶ月
4	35(13)	避難訓練は年2回消防署の指導のもと実施しているが、自治消防団や近隣住民の参加は得られていない。	災害時、自治消防団や近隣住民に協力を得る体制作り。	避難訓練実施を自治消防団や近隣住民に呼びかけ協力を得られるようにする。	6ヶ月
5	49(18)	コロナ渦で外出行事が出来ず、外食をする事が出来ない。館内での生活が主となっている。	お寿司やお弁当のテイクアウトをし、中庭で皆で楽しく召上って頂く。	年間行事に取り込み、外食気分を味わって頂く。	3ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。